

2023年度「BBCニュース」番組審議委員会 議事録

【開催日時】 2024年1月

【開催場所】 書面開催

【審議委員】 (敬称略・五十音順)

1. Marsha Krakower マーシャ・クラッカー (聖心女子大学 英語文化コミュニケーション学科名誉教授)
2. しばはら さなえ 柴原 早苗 (放送通訳者・大学講師)
3. とよだ おきと 豊田 沖人 (外国文学翻訳士・元 NHK 海外放送 英語アナウンサー)
4. ふじきま いちろう 藤崎 一郎 (一般社団法人日米協会 会長)
5. ふじむら あつお 藤村 厚夫 (スマートニュース株式会社 フェロー)
6. みやかわ みちこ 宮川 倫子 (倫総合法律事務所 代表弁護士)
7. もりた あきら 森田 彰 (早稲田大学 商学部教授)
8. もりよし なおこ 森吉 直子 (慶應義塾大学 商学部教授)

1. BBC からのご報告

BBC の東京特派員が 2023 年 2 月に交代となり、シャイマ・ハルル特派員が新たに着任したこと、また、4 月には英国国内向けニュース放送と全世界向けニュース放送を統合したことにあわせ、チャンネル名称を「BBC ニュース」に変更したことをご報告しました。さらに、2023 年の報道内容のうち、日本の視聴者から特に高い関心を寄せられたトピックとして、3 月のジャーニー喜多川氏の性加害に関するドキュメンタリー番組をはじめ、5 月の英チャールズ国王の戴冠式、6 月のロシアの雇い兵組織「ワグネル」の反乱、7 月に開始された福島原発の処理水放出、10 月に勃発したイスラエル・ガザ戦争があり、なかでも、2024 年 1 月の能登半島地震では、震災発生翌日には特派員が輪島市から被害状況を世界に報道し、国内外から大きな反響を頂いたことをご報告しました。

2. 審議内容

下記審議対象番組についてのご意見、ご感想

◆ドキュメンタリー

「J-POP の捕食者 秘められたスキャンダル」 Predator: The Scandal of J-Pop

2023 年 3 月 18 日 (土) 日本語字幕付き放送

3. 議事概要

1) 「J-POP の捕食者 秘められたスキャンダル」について

<番組内容>

ジャーナリストのモビー・アザーが日本を訪れ、日本のポップカルチャーの大物、ジャーニー喜多川氏の性的虐待の事実と、メディアに与えた強い影響力を調査し、社会が見て見ぬふりをする事の残酷な結果を明らかにする。

<ご意見>

■ 番組内容について

・『J-POP の捕食者』は、ジャニーズ問題を通して、日本社会が長年見て見ぬふりをしてきた社会的、道義的な問題を鮮明に描き出した。そして、日本の倫理観や社会の闇に対する警鐘として受け止められた。外国メディアの BBC だからこそ、客観的な視点で、突破口を開いてくれた側面もあったのだろう。

・日本の芸能界を変えた、エポックメイキングな番組だと評価している。

・欧米でも、未成年女性への性暴力事件（ジェフリー・エプスタイン事件）がメディアで取り上げられた背景があり、この番組の放送のタイミングは世界的な潮流に合っていたのではないか。

・2017 年、そして 2023 年の刑法改正まで、日本では性被害を訴えることに高いハードルがあり、特に子どもへの性加害は多くの場合、野放しにされてきた。日本のマスコミが性犯罪に関する報道を控えていたことも、加害者の告発と被害者支援が進まない要因となってきたと感じた。

・BBC.com 上の関連テキスト記事など、複数のメディアをリンクさせて番組情報を補完した姿勢は、模範的であった。

・画面切り替えが早く、視覚的情報が豊富であり、冗長さがいい点があった。また、アニメーションを用いたジャニーズ事務所の説明がわかりやすかった。

・どうしてこの題材を選んだのか、その選定理由についてももう少し詳しく紹介してほしい。

・文春以外の、この問題を報じてこなかった他の新聞、テレビ、雑誌社への取材は拒否されたことがあったが、そのやり取りについてもっと詳細に知りたかった。

・モビーン・アザー記者の単独取材のように見えるがそうなのか？ チームで取材もしディレクターなりプロデューサーとディスカッションしながら進めたのであればそれを示したら面白かったと思った。

<BBC 回答>アザー記者単独の取材では無く、番組監督である UK 在住のメグミ・インマン氏を始めとするチームで行いました。

■ 出演者について

・映像のタッチ、取材の表に立ったアザー記者のキャラクターが、日本のジャーナリズムとまた異なる点も、報道スタイルにおける彼我の差異を感じさせるというのも気づきであった。

・被害者や一般市民がジャニー喜多川の性的暴力を深刻な問題として受け止めていないことへのフラストレーションを、アザー記者がカメラに向かって語るアプローチが効果的であった。つまり、彼はカメラに直接、自らの感情や

疑問を表現するスタイルを取っており、これが日本の一般的な取材スタイルと異なっていると感じた。

・思うように取材が進まないことへの、アザー記者の焦りが見られ、ジャニーズ事務所への直撃取材では許可なくカメラを回し、警備員に注意されるシーンがあった。受付や撮影禁止とされている場所での撮影に関して問題はなかったのかという疑問がわいた。メディアのパワーを背景に強引に取材をしていると受け取られかねないのではないか。また彼が、感情論的なコメントをしている場面があった。中立公正を重んじる BBC のポリシーと反しているように感じられ、違和感があった。

■日本語字幕について

・字幕もわかりやすく、コンパクトで良かった。記者の声をそのまま残して字幕にしており、オリジナルのニュアンスが残るため、個人的には吹替より好みであった。

・「sexual abuse」の和訳が搾取となっていたが、性的虐待とした方が良かったのでは。

・いくつかの英単語の訳出のニュアンスについて違和感を覚える場面があった。また、字幕の字数制限があるとはいえ、いくつかの表現について、より詳しい和訳が必要と思われる場面も散見された。

■その他

・今回、制作された番組が法的な側面を含め、リスクの多方面からの検討が必要だったと推測される。このような番組を制作した BBC に感謝したい。

・この番組が日本の音楽業界、マスコミ業界、ひいては日本社会に与えた影響をまとめて報道する、などお願いしたい。

2) その他の BBC ニュース・チャンネルに関するご意見

・ジャニーズ問題の報道をはじめとして、今年度ほど BBC の存在感を日本中に知らしめた年はなかったのではないか。

・番組は放送したら消え去る一過性のものではない。BBC の番組では必ず制作年のクレジットが入っており、後々引用することも出来るようになっている点も評価できる。

4. 「民放連 放送基準」の一部改正について

「民放連 放送基準」が令和 6 年 4 月 1 日付にて一部改正されるのに伴い、「シーエス・ワンテン番組基準」の変更が諮問され、委員より異論なく承認されました。

以上